

介護保険制度の背景

【背景】

- 高齢化の進展に伴い、要介護高齢者の増加、介護期間の長期化など、介護ニーズはますます増大。
- 一方、核家族化の進行、介護する家族の高齢化など、要介護高齢者を支えてきた家族をめぐる状況も変化。
- 従来の老人福祉・老人医療制度による対応には限界。



高齢者の介護を社会全体で支え合う仕組み（介護保険）を創設

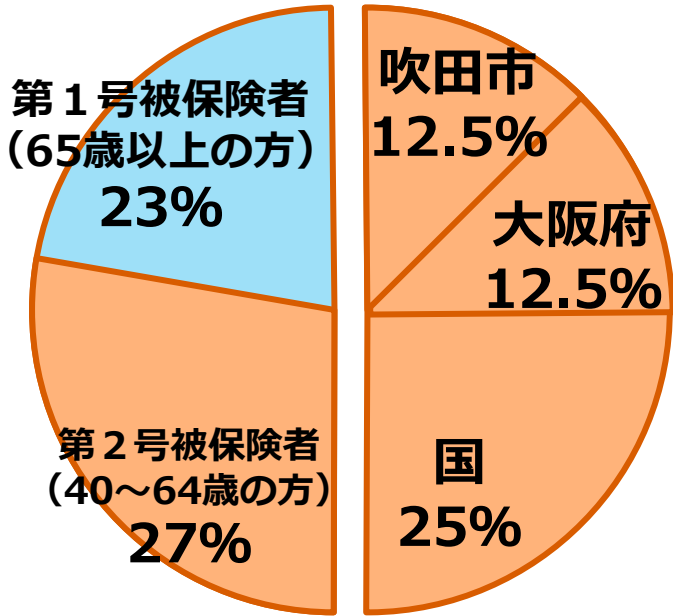
1997年 介護保険法成立、2000年 介護保険法施行

【基本的な考え方】

- **自立支援**…単に介護を要する高齢者の身の回りの世話をすることを超えて、高齢者の自立を支援することを理念とする
- **利用者本位**…利用者の選択により、多様な主体から保健医療サービス、福祉サービスを総合的に受けられる制度
- **社会保険方式**…給付と負担の関係が明確な社会保険方式を採用

介護保険の財源

財源の半分は保険料、半分は税金



財源
約280億円/年

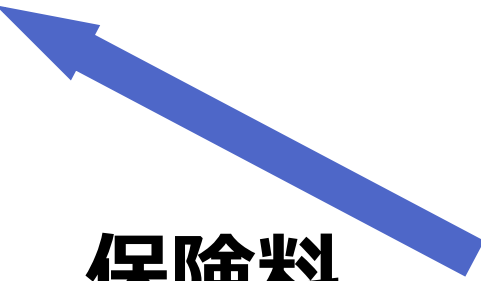
うち第1号被保険者負担額
約64億円/年

介護報酬
(費用の7~9割)



介護サービス事業者

利用料
(費用の1~3割)



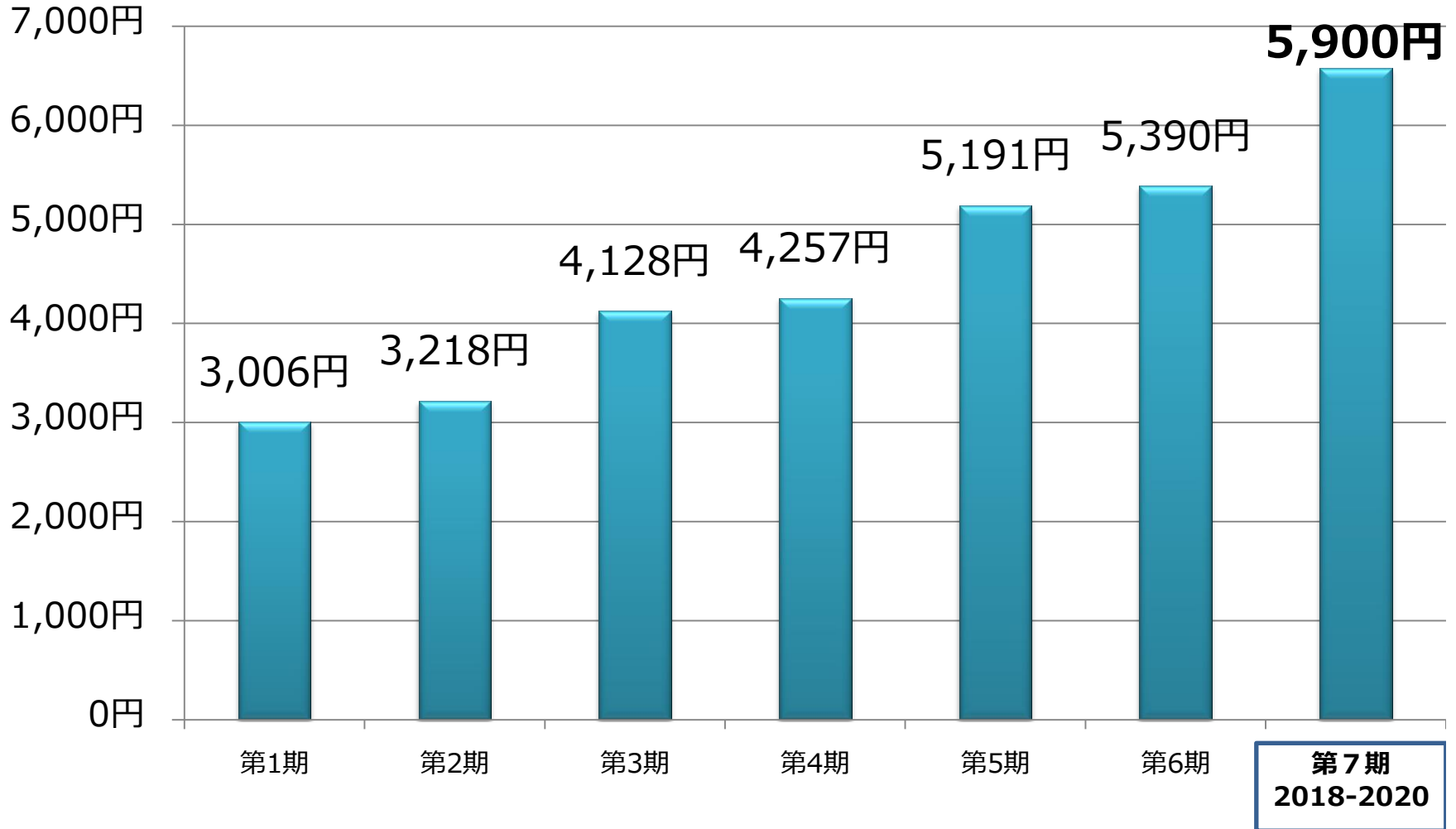
保険料
(原則年金天引き)



加入者 (被保険者)

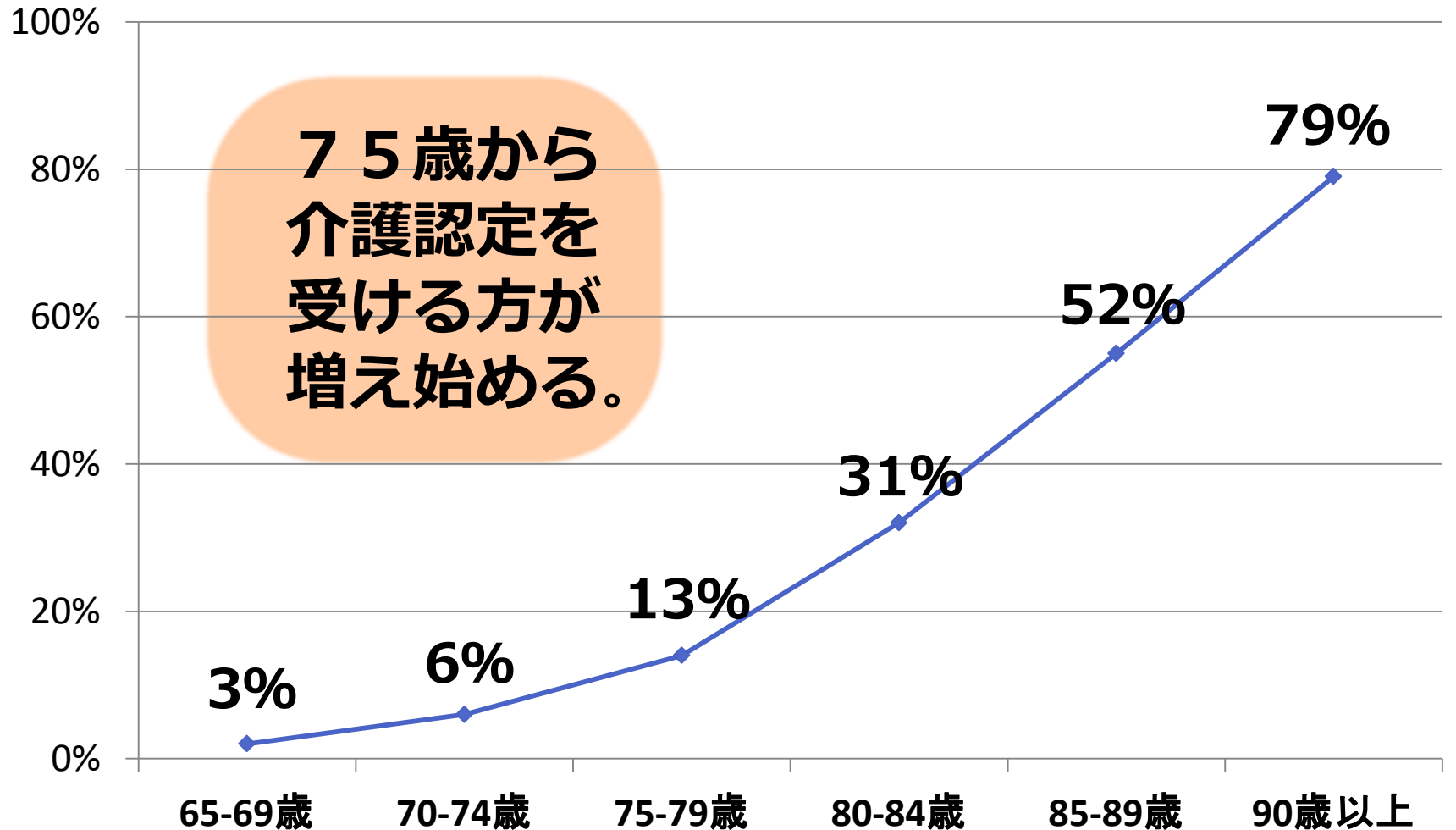
介護保険料の推移

第1号被保険者の介護保険料基準額（月額）の推移



要介護・要支援認定率（年齢区分別）

75歳から
介護認定を
受ける方が
増え始める。



(平成30年(2018年)3月末時点)